

1、団体名 認定こども園 くすの木

2、今年度の活動概要

①環境構成に関すること

くすの木では、園庭がなく、主に子ども達の遊び場は地域、街全体である。古川、公園、武田山、地域のお店、人たちとの関わり、植物、四季のうつりかわりなどを感じ、体験する保育活動をする中で、地域に開かれた自然保育を行うことを大事にしている。

地域の公園では、生えている植物も、植えてある樹木も異なり、それぞれの場のよいところを利用して遊ぶことができるとともに、訪れていらっしゃるお年寄りや、未就園児さんと一緒に関わらせていただき、遊びを一緒に楽しんだり、知恵を教えていただくなどの自然な関わりができた。

土手や水路、生えている植物など、身近な環境に助けられ、子どもたちの日常が豊かに展開している。草花や虫とのふれあいも多く、草花を集めて、制作に使用したり、植物の変化する様子を観察したり、積極的に自然との関わりを日常に取り入れている。

その他、地域の方のご好意で、田んぼや畑を貸していただいたり、保護者の方から生き物を譲り受けるなど、様々な方との関わり合いの中での良い経験が生まれている。



②遊びの事例や、子どもの育ちに関すること

春から楽しんでいた戸外遊び。自然との関わりの時間を多くとっており、そこで発見した桑の実。食べられることを知ってからは「桑の実いこう!!」と、子ども達にとって大好物のおやつとなった。そこから興味も膨らみ、食べられる植物と食べられない植物を積極的に区別しようとする姿が見られるようになり、さらに、そこからおいしい桑の実を選び分ける事も身につく。植物との親しみは、直接的な生きることへの知恵につながっているように感じる。



桑の実を食べていると、手や口が赤く染まることを知り、色水実験や布を染めたりすることへの興味につながる。「こうしたら、どうなるだろう」など、子どもたちが、発見することを楽しんだり、振り返り予測を立てる姿がみられ、また、友だちなどのさまざまな考えに触れることで、自分の思いや考えなどを考え直したりして、新しいことを生み出す喜びを感じるようになる。



桑の実を使用したのクッキングにてジャム作り。大好きな桑の実ということで大張り切り子ども達。おやつ  
のクレープとは合わず不人気だったが、そういった予想外のことも、学びとなった。



桑の実のみならず、桑の葉も収穫！！  
園長がちょうど桑の葉茶を家で収穫し、飲んでいるという情報を入手し、  
子どもたちも桑の葉茶はとても健康に良いことを知り、お茶作りに発展。  
身近に生えているものが、自分の体によいことを知り、好奇心や探究心を  
持って言葉などで表しながら、科学的な視点や、自然への愛情や畏敬の念  
などを持つようになる過程を、子どもたちの姿をみて感じた。





桑の実の活動を通して、子ども達だけでなく、私たちスタッフも、自然界の不思議さや、面白さを体感したり、自分たちとの生活に欠かせない恩恵を受けていることを感じた1年間。何より、自然界は多様性社会。一つ一つの植物はそれぞれの特性があり、それぞれに作用し役に立っており、全体としての調和がなされる世界。このような姿に、子どもたち一人ひとりが自分をしっかりと発揮できる保育、そして私たち大人も多様性を認めていける保育を展開できたように感じる。

### ③その他、自然活動の実施にあたって工夫したこと

(スタッフの資質向上の取組み,地域との関わり,保護者理解に向けた取組みなど)

#### ・スタッフの質向上の取組み

フィンランド研修への参加。(7日間)世界一幸福と呼ばれるフィンランドの乳幼児保育における、自然との関わりなど多様な面から様々な園を見学させていただいた。子ども主体の保育に取り組まれている中で、大切にされている自然との関わり。日本と同じ部分もたくさん感じながら、しかし、世界一幸福とされている国の保育には、やはり社会制度の充実があり、その差から見られる保育の違いについても考えさせられた。また、その後、スタッフ報告会、保護者様との報告会を兼ねたお茶会などを開催し、研究会を園内の保育に活かしていけるよう取組み始めた。こちらの研修報告会に参加され、フィンランドの保育を知り、桑の実の色水実験につながった(下写真左)。

～フィンランド研修日程～

24日 広島から成田へ  
25日 成田からフィンランドへ  
26日 タンペレ市 ①科学保育園  
②エシコウル  
③Metso  
27日 タンペレ市 ③ネウボラ  
④ムーミン博物館  
28日 エスポー市 ④インクルージョン幼児保育園  
⑤Talo保育園  
29日 ヘルシンキ ⑥森の教室  
バンター市 ⑦モンテッソーリ系幼児保育園  
30日 ヘルシンキ市内自由散策後  
成田に向け出発  
31日 成田に到着。広島へ。

#### ・保護者様に対して

遊びの楽しさや、活動への心配ごとを園と保護者の皆様とで共有や連携ができるよう、発信するツールや受信するツールを持っている。(お部屋ごとのドキュメント、園全体の様子がわかる園だより、フェイスブックや、大園長ブログ、その他、送迎時の対話、連絡ノートなど)また、活動によっては、服装が普段と異なった方がよい場合は事前にお伝えし、持ち物持参の依頼や、身体的な準備の確認を行っている。(服装、持ち物、体調の申し伝え等)自然体験のほか、自然物を使った装飾等、日頃の日常の家庭生活でも楽しめることを保育園内に散りばめ、保護者の方も、自然物から心地よさを感じられるように心がけている。日頃の園生活において、基礎的な準備(心、体、技能)などを段階的に行い、年齢に応じて、無理をしすぎない活動をプログラムしており、安全とチャレンジの軸をぶらさないようにしている。



ブルーベリー手作り絵の具。それぞれ、レモン、ブルーベリージュース、水、ソーダ、重曹をまぜたもので、酸性などの数値で色が変わる。(フィンランド研修にて)



フィンランドの森のクラブ

・園庭には基本的にカラフルな遊具が多く、環境面の配慮のためか、ゴミ箱がそれぞれに設置されていた。



・フィンランドには、自然教授権という「誰が所有する土地であっても、ルールを守れば、森や湖などに自由に入って楽しむ権利がみんなにある」という慣習が古くからある。乳幼児保育の中でも森にでかけ遊んだり、制作等に使用する材料を集めたりと積極的に利用されていた。森のクラブで使用する森林は安全面がよく管理がされており、ガラスなどを見つけたらすぐに拾うなど気をつけられているそう。



・子どもの生まれつきの好奇心を尊重し、見る、触る、など5感を使って自分で調べる・体験するということを重視された活動。(科学保育園)



【水・油・絵の具を使用した実験】



【色の三原色を利用した実験】

・シャボン玉を利用してのお絵かき。子どもの「～やりたい」の言葉をうけ、カリキュラムなどを考えながら、子どもの興味に添った環境を整えていく。という子ども主体の保育を行なっている。（インクルージョン幼保園）



・“失われたまち”に関するプロジェクト。昔の暮らしはどんなだった？という問いからインディアンにたどり着き、約1週間でここまでの完成度！廃材も豊富に使われ、ほとんど子ども達中心で作っていた。（tal幼保園）



【壁面ドキュメント】

ブルーベリーやコケモモの実がたくさん！

・森のクラブ



虫との出会い



木のみを使ったお店やさんごっこ

木や石を使ってのお話。森ではオープン（自由）&クローズ（集中）を繰り返している。

